

子どもの心を育む愛着

入園、進級から一ヶ月が経つ頃は、子どもたちの緊張も解かれ始め、特に連休明けは体調を崩すことが多くなります。反面、2歳児クラスになると、自分以外の子どもや大人（保育者）の存在に気づき、同じ空間で過ごすことを楽しいと感じるようになってきます。

一歳児クラスからの持ちあがり、5歳クラスに兄のいるMちゃんは、登園時は泣かないものの表情は堅く、保育者が呼び掛けても発語は無く、友だちが遊んでいるのを遠くから眺めていることが多分にありました。しかし担任は、家庭では兄とおしゃべりをしながらよく笑い一緒にサッカーをする等活動的な面があると知り、Mちゃんが周囲を気にせず自分を表現できる環境や関わり方に工夫をしました。

Mちゃんの気持ちを一番に考えながら、保育者の願いを優先させずに、「その時々的心情に合わせてゆっくりでいいよ」と安心感や信頼感に繋げていきました。少し時間を要しましたが、友だちから声を掛けられ嬉しそうに遊びに加わっていく姿が見られ焦らずに「待つ」大切さを感じました。

T君は、月齢が高いこともあり身辺自立も早く、自分の体験を詳細に話すなど大人との会話に長けた子でした。又、家庭での出来事や周囲の状況が良く解るからこそ、「僕はこんなにおこっているのに」「僕を見ないで、笑わないで」と感情を誰彼構わずぶつけていました。友だちの行動にも干渉し、思いが通らない時には癩癢を起す為、仲間が離れていくこともありましたが、保育者は包み込むように抱き締めながら、T君の気持ちが落ち着くように「大丈夫、大丈夫だからね」と声を掛けました。遊びの経緯を聞きながら、友だちにもそれぞれの思いや考えがあることや受け止め方にも違いがあると伝えました。

同じ年齢でも、月齢や経験の差異によって子どもの姿も様々です。特に未満児クラスでは生活習慣の自立や言葉のやり取りが顕著に表れます。自己主張も強くなり大人の手を借りずに意欲的に行動しようとする姿や、友だちとの関わりの中で気持ちのぶつかり合いもあります。そんな時、振り向くと肯いてくれる人（親、保育者、友だち）の眼差しに支えられ自立へと向かっていけるのだと思います。

子どもにとって、「心の拠り所」となる傍らの大人たちの変わらぬ「愛」は、水や食べ物と同じくらい大切なものであるといえるのではないのでしょうか。

なでしこ子ども園園長 藤巻真由美
第2なでしこ子ども園園長 鈴木 真理
クレイシュ保育園園長 小清水幸子

5月聖句

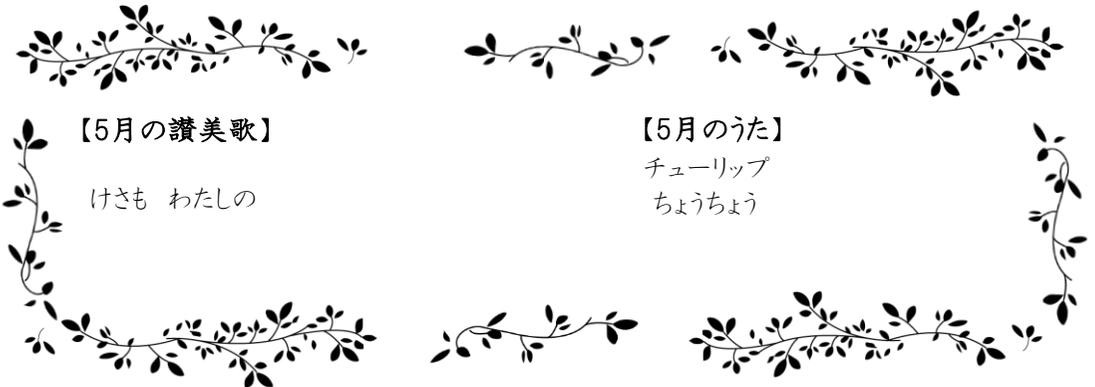
沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい。
ルカによる福音書

5月主題

「だいじょうぶ」0・1・2歳

～子どもたちの姿～

青空が広がるさわやかな季節となり、散歩をするとテントウムシや蝶々など子どもの好奇心をくすぐる虫と沢山出会います。花壇ではアリの巣を見つけ、持っていた小枝を穴の中に入れ、登ってきたアリに驚いたり、指で触れたり興味を示していました。行列を見つけた時は「どこに行くんだろう」「ご飯を探しに行くんだよ」「おうちに帰るんだよ」と友だちと想像力を膨らませながら話したり、虫を運んでいる姿を見ては少し怖がる様子を見せながら、じっと観察していました。遊びを通し感性や想像力、好奇心が育めるよう、また子どもたちの主体的な姿に寄り添い、子どもの遊びを支え次の意欲につながるような活動を行っていきたいと思います。



	月	火	水	木	金	土	日
5月の予定表			1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 子どもの日
	6 振替休日	7	8	9	10 身体測定	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20 避難訓練	21	22	23	24 検体	25	26
	27 誕生日会	28	29	30	31 クレイシュ通信		
	◎日差しが強く汗をかく日も多くなり、着替えの機会が多くなりました。気候に応じた服装の準備をお願いいたします。						